

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	日光市こども発達支援センターつばさ園（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 8日		～ R8年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	R7年 12月 8日		～ R8年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1 親 子 通 園	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者がお子さんとの関わり方を体感して学び、成長の瞬間を見ることができる。</li> <li>他の友達の様子や他の保護者との会話から、保護者同士が学べる。</li> <li>身の回りのことを、親子で関わりながらスモールステップで行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が、お子さんの苦手な部分だけでなく、お子さんの長所に気づき、子育ての喜びを感じられるように支援している。</li> <li>保護者の集いや、専門職による保護者学習会を開催している。</li> <li>活動のねらいや支援の内容を再考し、一年目の職員や現職員にも活用できる冊子を作成した。</li> <li>毎月のおたよりに活動のポイントを載せて、療育中に伝えられない部分を伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者支援につながるように、こどもの対応で説明が必要とされる部分については、出来るだけその日のうちに対応する。</li> </ul>
2 グ ル ー プ	<ul style="list-style-type: none"> <li>3～6名の少人数グループで、ことばの理解や話を聞き表現する力を育て、ルールのある遊びを通して社会性を身につけていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が観察室で子どもの様子を見て、頑張っているところを終了後に褒めてもらい、自己肯定感が育まれるよう支援している。</li> <li>こどもの成長をカンファレンスで共有している。</li> <li>活動の内容をまとめて、一年目の職員や現職員にも活用できる冊子を作成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動のねらいを再考し、一年目の職員や現職員にも活用できる冊子を作成する。</li> </ul>
3 個 別	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理士によるお子さんのインフォーマルとフォーマルアセスメントをもとに、ひとりひとりのお子さんの心理や発達面に合わせた個別療育のプログラムを実施している。</li> <li>保護者がお子さんとの関わり方を体感して学び、成長の瞬間を見ることができる。</li> <li>療育後に毎回、保護者とお話しする時間をとっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お子さんに合わせた環境の構造化を行っている。</li> <li>それぞれのお子さんの発達水準に合わせて、感覚的な遊びから認知的な課題等、幅の広い遊びや活動ができるようにしている。</li> <li>お子さんの普段の生活が充実するように、お子さんの情緒の安定を図っている。</li> <li>個別療育で行った遊びを保護者が家庭でも取り組めるように、なるべく身近に使えるもので遊びを構成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、丁寧にアセスメントを実施し、ひとりひとりのお子さんのニーズに合わせた個別療育を設定する。</li> <li>心理士の研修に参加し、自分自身の振り返りを行い、新しい知識とスキルが身につけられるように自己研鑽する。</li> <li>今後も、お子さんと保護者の両者が楽しく参加できるような内容の個別療育を設定する。</li> <li>必要と思われる時は、個別療育日ではない別日に、保護者との面談の時間を作る。</li> </ul>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1 親 子 通 園	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢、福祉型、医療型が分かれていない。</li> <li>並行通園で週1～月2・3回利用児が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年齢、人数、利用児の状態に合わせた療育の設定が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりに合った支援ができるよう、環境設定や支援の仕方を職員間で共有し、実践していく。</li> </ul>
2 グ ル ー プ	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用児によって開始時期が違う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年中クラス6名、年長クラス12名と、定員になるまで途中利用が可能なので、課題の調整が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの課題や状況をより把握して、スタートは違っても様々な経験ができるように計画していく。</li> </ul>
3 個 別	<ul style="list-style-type: none"> <li>お手紙の配布時期にバラツキがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別療育のみをご利用の場合、月1回程度の通所になるため、急な欠席の時に配布が遅れてしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席連絡の時に、配布できないお手紙があることを知らせる。また、メール配信などのDXの活用の可能性を検討する。</li> </ul>